

二瀬窯業株式会社
関東技術課

ブリックモルタル DS・M タイプ 目地詰め施工要領

■ 材料

- 1.ブリックモルタル DS・M タイプ : 25kg 袋入り
- 2.練り水 : 3.0L～4.0L

■ 一本目地工法(チューブ詰め)粗面仕上げ

- ①ドライアウト防止のため必要に応じて目地部に水湿しを行ってください。
- ②モルタルミキサやモルタル用かくはん機などの機械器具を使用し、ブリックモルタル DS・Mタイプ 25kg に、水道水を 3.0L～4.0L 加え十分に練り混ぜてください。
練り混ぜたモルタルは 40 分以内に使用してください。

調合

ブリックモルタルDS・Mタイプ 1袋 + 水道水 3.0L～4.0L

- ③目地詰め用のチューブ袋に練り混ぜたブリックモルタルを詰め込んでください。
チューブに満量詰めると吐出しにくくなるため、適度な量を見計らってください。
- ④目地部に沿って絞り出すようにして充填してください。
仕上げ面より若干厚く付けてください。
- ⑤水引き具合を見計らい、目地ゴテや硬めのホウキ・ブラシなどで目地の方向に沿って表面を薄く削り取るように仕上げてください。仕上がり時のモルタルの水引き具合の違いによって、色調に差が出ます。モルタルの水引き具合は、気温や湿度・日射によって変わります。
そのため、施工したモルタルで水引き具合を確認しながら、同じタイミングで仕上げてください。
モルタル表面に少し膜が張ったタイミングが頃合いです。
- ⑥タイルに付着したモルタルは、早いうちに水を固く絞ったスポンジで除去してください。
(充填したモルタルが濡れないように注意してください。白華の原因になります。)
モルタルが硬化してしまうと酸洗いでしか除去できなくなります。過度な酸洗いを行うと、仕上がりにも色調差がでるため、必ず早いうちに除去してください。
- ⑦施工後は風雨にさらされないようシート掛けなどの養生を施してください。

■ 白華現象が起こった場合の処置

- ① サッシなどに塩酸がかからないよう要所に養生を施してください。
- ② タイル面・目地面全体を十分に水で濡らしてください。
- ③ 表面が十分に濡れている間に酸洗いを行ってください。

(工業用塩酸を水で30倍に希釈したものを使用し、ブラシなどで白華部分をこする。)

※濃い希釈の工業用塩酸で酸洗いをを行うと、目地表面部分のセメントが溶け、骨材が多く露出します。その場合、骨材の色が目立ち、色調に差がでます。

そのため、濃い希釈液では使用せず、30 倍希釈液を使用してください。

また、ブラシでこすり過ぎることでも、目地表面部分のセメントが溶け、骨材が多く露出します。

一度目立たない箇所で酸洗いをを行い、仕上がりを確認してから酸洗いを行ってください。

- ④ もう一度水洗いをおこなって、塩酸をきれいに洗い流してください。

■ 諸注意

- ① 目地詰め後の酸洗いの濃度は、工業用塩酸を水で 30 倍に希釈したものとして下さい。
濃度が濃いと、目地表面のノロ分が流れてしまい、骨材が多く露出するため、仕上がりが悪くなり、色調が異なって見える場合があります。

- ② 仕上げ時のモルタルの水引き具合の違いによって、仕上がりの色調に差が出ます。

モルタルの水引き具合は、気温・湿度・日射・風等によって変わります。

そのため、施工したモルタルで水引き具合を確認しながら、同じタイミングで仕上げてください。

目地詰め後にモルタルが柔らかい時に仕上げを行うと、白華が発生する可能性が高くなります。また、固く締まった状態で仕上げを行うと色調が濃くなります。

色調がバラついたものを同じ色調にするのは非常に困難です。

- ③ タイルに付着したモルタルは、早いうちに水を固く絞ったスポンジで除去してください。

モルタルが硬化してしまうと酸洗いでしか除去できなくなります。過度な酸洗いをを行うと仕上がりに色調差がでるため、必ず早いうちに除去してください。

- ④ M タイプを塗り目地工法では使用しないでください。スポンジ仕上げ拭き後に骨材が偏って露出してしまい仕上がりが悪くなります。

- ⑤ 目地詰め工事に際しては、タイル張付け後、十分な養生期間を確保してください。

- ⑥混練水の他、弊社が指定した材料以外との混合・混練はしないでください。
- ⑦強度などモルタルの物性に悪影響を及ぼすため、水を加えて練り直しをしないでください。
- ⑧色調を一定に保つため、水量の管理は厳密に行ってください。
- ⑨色調が変化することがありますので、練り足しはしないでください。
- ⑩固まった材料の使用は避けてください。
- ⑪開封後の材料は使い切ってください。
- ⑫使用後の道具・工具類は速やかに水洗いしてください。
- ⑬タイル・レンガ等の材質や表面の仕上げ等によっては、材料がタイル・レンガ等の表面に付着したまま乾燥すると、材料が取れにくくなることがあります。
- ⑭材料の保存は、地面や床へ直置きしないようパレットなど使用して湿気を避け直射日光や雨掛かりのないようにシート掛けなどを施してください。
- ⑮降雨・降雪時の施工は行わないで下さい。
- ⑯**気温が3℃以下及び3℃以下になると予想される場合は、施工を行わないで下さい。**
- ⑰施工環境などの違いから当社配布の実物サンプルとは色調に差異が生じることがありますことをご了承下さい。
- ⑱ブリックモルタルDSは白華現象が極力発生しないよう調合を施していますが、条件がそろえばやむなく発生してしまうこともございます。まずは、以下の事項に十分留意して施工を行って下さい。
 - ・指定水量より多量の水を混入しないで下さい。
 - ・固くなったモルタルへの再加水は行わないで下さい。
 - ・仕上げのタイミングに十分注意して下さい。
 - ・目地仕上げ時に水を使用しないで下さい。
 - ・施工直後に水濡れがないようシートなどで保護して下さい。